



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2013年 No.4
(通巻30号)
9月22日発行

例年にまして厳しかった夏もようやく終わり、日に日に秋の気配が増す今日この頃です。
皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。
今号は秋のイベントのご案内を中心にお送りいたします。
皆様お誘い合わせて、是非おいでください。

★★★ 『よこはま国際フェスタ2013』 出展 ★★★

<http://yokohama-c-festa.org/>

日時：2013年10月19日(土)・20日(日)

10:30~16:00 小雨決行・荒天中止

会場：象の鼻パークAゾーンの一部およびBゾーン

みなとみらい線 日本大通り駅より徒歩5分 JR・横浜市営地下鉄 関内駅より徒歩15分

主催：よこはま国際フェスタ2013プロジェクト

構成団体：(特活)横浜NGO連絡協議会 公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)

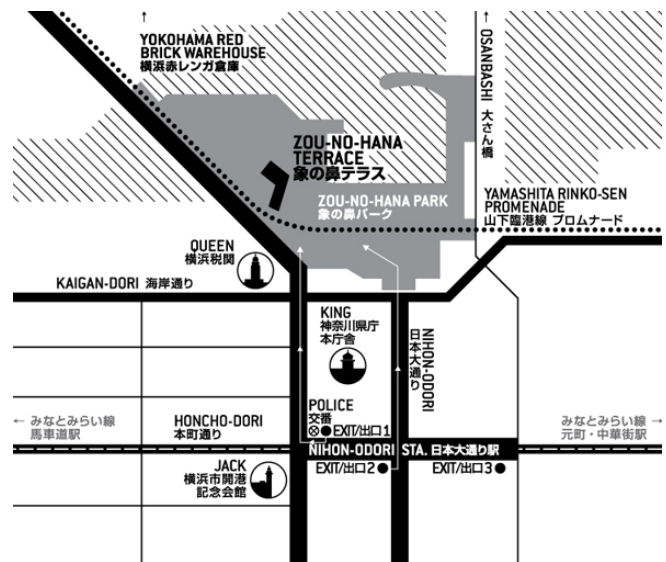
JICA 横浜 横浜市政策局国際政策室 (特活)教育支援協会 日本赤十字社神奈川県支部

地図は「象の鼻テラス」さんのものを流用させていただきました。

横浜市内および周辺地域に活動拠点を置く、国際協力・国際交流・在住外国人支援に取り組む諸団体、諸機関、学校、企業の活動紹介と相互の連携促進、また、国際協力や国際交流の文化が根付いた活力のある地域づくりを図って開催される、神奈川県最大規模の国際フェスティバルです。

バオバブの会は、本年も世界の食ゾーンに出展し(ブース番号805)、マフェ(トマトとピーナツソースのビーフシチュー*)、ヤッサ(マリネしたチキンと玉葱のシチュー*)、ベニエ(ココナッツやレーズン入りアフリカドーナツ)、アターヤ(セネガル風ミントティー)の他、ケベサック(セネガルのお母さんたち手作りのアフリカプリント布バッグとポーチ)、アフリカ関連児童書等を販売いたします。
また、ブース内では、展示による活動報告を行います。

*マフェとヤッサは、会場の都合により、今回も、ライスではなく、パン添えになる予定です。

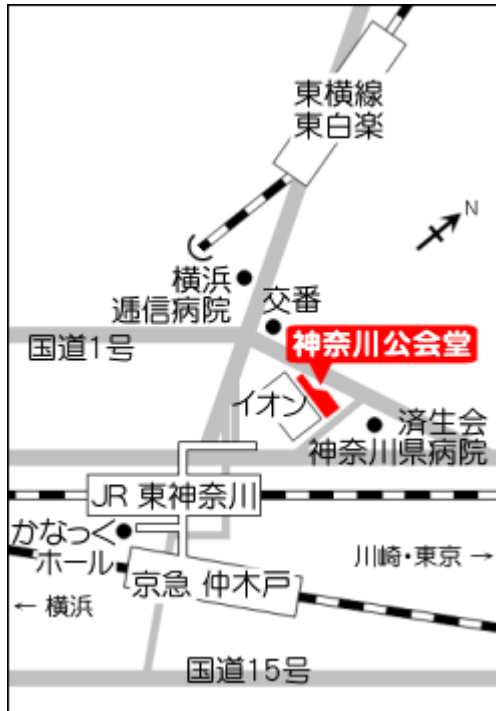


★★★ アフリカ音楽コンサート 見て、踊って、アフリカを支える力へ～

「セネガル物語」 <http://www7a.biglobe.ne.jp/~africulture/> ★★★

日時：2013年11月23日（土・祝日）コンサート開場14：00 開演14：30

会場：神奈川公会堂（講堂）



221-0821 神奈川県横浜市神奈川区富家町 1-3

JR 東神奈川駅／京急 仲木戸駅 徒歩4分 東急 東白楽駅 徒歩5分

入場料（コンサートのみ。他のイベントは無料）

前売り 500円 当日700円

WE ショップかながわ、アフリカルチャー各種イベントにて販売
または、往復はがき、FAX、Eメールに、氏名・住所・希望枚数を明記の上、お送りください。

往復はがき→〒221-0842 横浜市神奈川区広台太田町 3-8 神奈川区区民活動支援センター『子がめ21』

FAX →045-314-8890

Eメール →africulture@kjf.biglobe.ne.jp

*コンサート出演者

Omar Gaindefall オマール・ゲンデファル 元セネガル国立舞踊団団員。ジェンベ、タマ、サバル、ソウルバ、コンガなどの太鼓演奏とボーカル。伝統音楽はもちろんだが、多ジャンルのミュージシャンとの共演も多い。出演の動画はこちら→http://www.youtube.com/channel/UCewwl36xMjY9jMgVYG9de_g

今回は、アフリカルチャーとダンスクラス参加の生徒さんが一緒に踊ります。

アニチェ ソウルバという西アフリカの打楽器を演奏する、日本で唯一のグループ。メンバー全員がアフリカに渡航し、現地のソウルバグループと共に村々を回り、リズム、歌、踊りなどを学んだ経験を持つ。

*コンサート以外のプログラム

11：30～12：30 太鼓の体験ワークショップ 参加費500円（当日先着10名）

12：00～12：30 ダンスの体験ワークショップ 参加費無料

13：00～14：00 参加団体と来場者による パネルディスカッション 参加費無料

*パネル展示・販売参加団体

バオバブの会 FGM 廃絶を支援する女たちの会 FAN3jr

Harmony for peace WE21 ジャパンかながわ

バオバブの会は、パネルディスカッション参加、展示による活動報告、ケベサック（セネガルの女性グループ製作のアフリカン・プリント布バッグとポーチ）、アフリカ関連児童書他の販売を行います。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★
第10回『悲観対楽観 ふたりの青年の会話』 上

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ (訳・文責 水野)

一緒に育った、ふたりのいとこ同士の青年(1)が、大学進学のため、首都に出てきて、ひとつの部屋で暮らしています。ある日、ふたりは、お昼ごはんの後、お茶を飲みながらラジオを聴いていました。

ラジオ：「アフリカのニュースです。最初は政治問題。マリで新大統領が選出されました。この選挙が平和裏に行われたことに、政権側も野党側も安堵しています。コンゴでは政府軍と反乱軍との間に銃撃戦。12人が死亡。何百人もの住民が戦闘地域から避難しています。。。」

青年1 やはり、アフリカには、いつまでも平和と発展が訪れないだろうな。

青年2 いつまでも悲観的なのはお前だね。エジプトのピラミッド建設も、マリやガーナの帝国創設と繁栄も、みんな、ここ、アフリカの話じゃないか。アフリカは、歴史に翻弄されて遠ざかっていた発展の道を、再び見つけることができると思うよ。アフリカ人は、世界で一番、平和的で社会的な人間だったのだし。

青年1 世界で一番？ そりゃあ、言い過ぎだろう。少し控えめに言ってよ。

青年2 いやいや、ぼくは大げさになんか言ってないよ。お前はマンデン憲章(2)を知ってるかい？ ここアフリカで誕生した、人類初の人権憲章だよ。1222年、マリ帝国のスンジャータ・ケイタ皇帝によって作られたんだ。国連の人権憲章草案より7世紀も前にね。アフリカがよそから学ばなきゃいけないことはたくさんあるかもしれないけれど、ヒューマニズムだけはその必要がない。もともとここにあるのだから。

青年1 シェイク・アンタ・ジョップ(3)は、ぼくたちにアフリカの歴史を教えるとき、<謙遜>ということ教えるのを忘れたのだな。ぼくたちは、いつも、昔の栄光を誇りすぎる傾向がある。ぼくたちを除いて、今の人々は、ほとんど誰も聞いたこともなければ、想像したことさえない過去の栄光をさ。

青年2 ぼくたちは知ってる、それが大事なんだ。知らなかったらもう終わりさ。

青年1 そうだ。だけど、そんなに始終、そこに戻ろうとしても、何の得にもならない。それは、過去の栄光の上にあぐらをかき、ってことさ。役に立たない。時間の無駄だ。今のような行動の時代の競争社会の中では、まさに自殺行為さ。セネガルのウォロフの人々が「**松明で照らして自分を目立たせようとすると、命を犠牲にする恐れがある**」と言うように。

青年2 誇りは悪じゃない。セネガルのセレールの人々は「**誇りは完全な挫折を阻む。どんな挫折も誇りまでは傷つけないから**」と言うじゃないか。それに、ぼくたちに<アフリカ人>という集団意識を与えてくれるのは、まさにこの誇りだよ。<アフリカ人>という、鉄のように強固な意識。それは、あらゆる搾取、あらゆる誹謗、あらゆる屈辱にも屈することなく、この地上にかつての地位を取り戻す日まで生き続ける。一方、欧米のやつらは、ぼくたちの人的資源や天然資源を横取りしただけじゃない。ぼくたちの歴史を盗んだんだ。芸術さえもね。いったい、どれだけのアフリカの芸術や文化が、欧米といっても主にヨーロッパだけど、知らぬ間にコピーされ、盗まれたことだろう(4)。やつらはぼくたち<アフリカ人>の道を曲げ、発展の力を奪い、裏切ったんだ。

青年1 やつら、やつら、って。。お前の考えはわかってるよ。ぼくたちは、いつまでも、現在の状況の責任をヨーロッパ人に負わせるのをやめようとしな。それなら、ぼくたちを服従させ、ぼくたちの発展を阻み続ける、ぼくたち、アフリカの独裁者はどうなんだい？

青年2 お前は何にもわかつちやいない。カメルーンのドゥアラの人々が言うじゃないか。「盗むのは犬、そして耳を切られるのは山羊」ってさ。誰が独裁者をこしらえて、いつまでものさばらせているんだい？パトリス・ルムンバやアミルカル・カブラルやトーマス・サンカラ（5）等々、人々を解放して、発展への道を選ぼうとした指導者たちを、誰が暗殺したんだい？それは欧米のやつらだ。セネガルのマレンケの人々が「倒れた場所は見なくていい。ぶつかったところを見よう」と言うように、もともとのところを見なければいけない。

青年1 そのことは、とっくにロードネイが言ってるよ（6）。それはわかる。（次号に続く）

- (1) セネガルでは、いところ士の関係というのはなかなか良いものです。彼らの会話や議論の中にはいつも冗談やからかいがあり、ときには喧嘩のように見えるほどですが、決してそうではありません。互いにまったく悪意はなく、心の底から笑いあいながら、率直にものを言い合っているのです。
- (2) スンジャータ・ケイタ Soundiata Keita(Sogolon Diata Keita)皇帝（1190~1255）は、マリ帝国（13世紀初頭より約400年間、現代のセネガル、マリと、ギニア・コートジボアール・ブルキナファソ・モーリタニアの一部にまたがり、繁栄した大帝国）の創始者であり伝説的英雄。彼が制定したマンデン憲章はもともとは口承で、ユネスコの人類の口承及び無形遺産の傑作とされている。今はこちらで読むことができる→<http://libertaire.free.fr/CharteduManden.html>
- (3) シェイク・アンタ・ジョップ Cheikh Anta Diop（1923~1986）は、セネガルの歴史学（特にエジプト学）、文化人類学者、政治家。セネガルの国立ダカール大学は、1987年より、彼の名前を冠せられている。
- (4) パブロ・ピカソの作品の多くにアフリカの彫刻や仮面の明らかなコピーが見られ、フォンテーヌの寓話の多くもアフリカの民話からとられたもの、と言われている。
- (5) パトリス・ルムンバ Patrice Lumumba（1925~1961）はコンゴ民主共和国の政治家、独立期の指導者、同国の初代首相。ベルギー人により暗殺。アミルカル・カブラル Amilcar Cabral（1924~1973）はポルトガル領ギニア出身の農業技術者、作家、革命家。ポルトガル秘密警察の支援を受けた、かつての同志により暗殺。トーマス・サンカラ Thomas Sankara(1949~1987)は、現ブルキナファソの第5代大統領。37歳で殺された劇的な生涯とその革命的な思想から、アフリカのチェ・ゲバラと呼ばれる。アジスアベベで行った歴史的な演説のあと、かつての同志だったブルキナファソの現大統領によって殺された。
演説はこちらで聴くことができる→http://www.dailymotion.com/video/x17idb_discours-de-thomas-sankara-a-addis_news
- (6) ウォルター・ロードネイ Walter Rodney（1942~1980）はギニアの歴史家、政治活動家。この発言は、彼の有名な著書、*How Europe Underdeveloped Africa*1972 邦題『世界資本主義とアフリカ』北沢正雄訳、柘植書房、1978のこと。

*バオバブの会は会員の皆様の会費で運営されています。今年度の会費を未納の方は、急ぎお納めください。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215